

台形集成材を利用した木製品モデルの試作(2)

— 事務機の試作 —

中神照太・見尾貞治・中村睦男

1. はじめに

台形集成材の用途は、最近では使用量の確保のため、建築用材としての用途開発が盛んになっている。しかし最初は、集成材の芯材や家具・木工用材への利用をめざして開発された材料である。

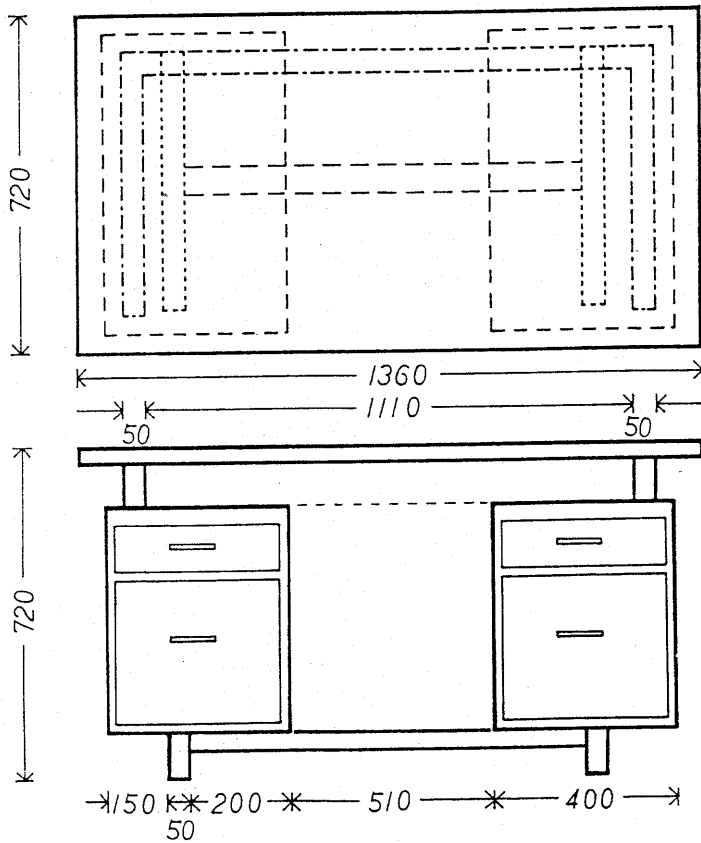
ここでは、初期の用途である家具用材としての利用を図るため、事務機の製作を試みた。

2. 仕様と外観

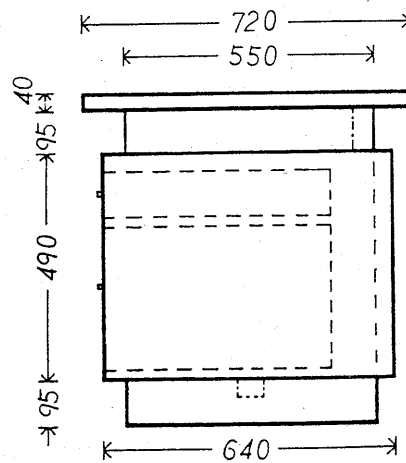
津山国産材加工協同組合で製造されたヒノキの台形集成材ブロックを、板材に製材して使用した。

試作品の寸法は第1図に示すとおりである。ここでは、天板と両袖のそれぞれを詰め込み式とし、移動に際して分解でき、形状的にも重量的にもコンパクトに取り扱えるように工夫してある。

平面図



正面図



側面図

第1図 事務機の寸法 (単位: mm)

ヒノキの材色を生かすため、表面にはクリアラッカーをハケ塗りして仕上げた。
作品の外観を写真1と写真2に、天板との組合せ状況を写真3に示す。

写真1 正面の外観

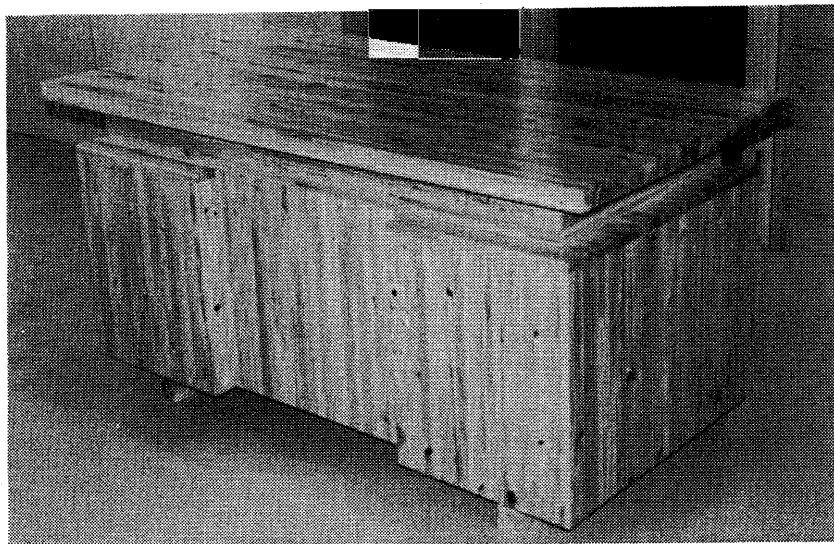


写真2 背面の外観

写真3 天板の裏側

